



発行 真宗大谷派 飛騨御坊真宗教化センター  
 発行者 三島 多聞  
 〒506-0857 高山市鉄砲町6番地  
 ☎(0577)32-0776  
 \*毎月20日発行 50,000部  
 三市一郡無料配布  
 印刷 山都印刷株式会社

# 念じられ 照らされて

## たまわった「いのち」

海老原 章



〈略歴〉  
 一九六〇年、三重県桑名市生まれ。三重教区桑名組明光寺。岐阜高山教務所長兼岐阜別院輪番。社会福祉法人大谷聖徳会聖徳保育園理事長。

親鸞聖人七百五十回御遠忌法要から十年、そして東日本大震災から同様の歳月が流れました。殊に昨年、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって私たちの日常は一変してしまいました。仏事や法要は中止や延期の方途がとられました。その中で改めてなお、様々な工夫によって勤めていくことの大切さを感じています。

私事ですが、昨年十月に母の十三回忌の法要を勤めました。月日の経過は早いもので、あれから十二年が経つのだと。一方でこの十二年間、日は幾日も重なり、あの日の出来事は、長い時間の彼方に追いやられていたこともまた事実でした。この法要をむかえるにあたり、亡くなったときの状況が鮮明に脳裏に蘇りました。

同時に、東日本大震災から十年、そしてこのたびのコロナ禍の状況下で、改めて「いのち」ということを考えさせられる年でもありました。しかし、十二年という歳月が経過した反面、亡き母に対して、時の流れとは逆行し、徐々に増していることがあります。それは、あるときは悔恨の想いであったり、あるときは哀惜の痛みであったり。

死とは、これ程までに突然で予期せぬ形で到来するものとは、今更ながら世の無常を感じずにはいられません。亡くなって初めてその人の存在の重さを知りました。母がこなしていた仕事はどうするのかに始まり、そして毎日のように訪れてくださる甲斐の方々…。悲しみに沈んでいる間もないほどの慌ただしさの中で、一日一日が過ぎていったことを記憶しています。

そうした中で私が実感したことは、人ひとりの「いのち」というものは、これほどまでに多くのことと関わりをもっているということ。それが人であったり、物事であったり。しかし、一方で、普段は気付かないけれども、数多くの方々の交わりの中で、お世話になりながら母は生かされてきたのだということ。

このことは、亡き母に限らず、今「いのち」を授かっているこの私たち一人ひとりにいえることなのだ。母の死を通して教えられました。

私の「いのち」は、父母を縁として母の胎内に十ヶ月間宿り、日々、色々な心配りの中に育てられ、この世に誕生してきました。

こうしていただいた「いのち」の縁を「有り難く、そして尊く」いたしていくと、亡き母は、自らの「いのち」をかけて、私たち家族に教えてくれたと思っています。



### 新春のご挨拶

高山別院輪番 三島多聞

知足の新年  
 コロナに想う。調和のとれた自然と環境と人間の生活はどうあるべきか。あらゆる分野でも同じ課題があります。で、この新年にあたり考えたのは、昔から言われている「知足：足るを知る」ということの大切さです。

テレビの広告宣伝で、「おにぎり」が転がって穴に落ちてしまう場面が出て、日本で一日一億個のおにぎりが食べられずに捨てられていると言っていました。

一人の「一個くらい」が一億個となる。一億個の無駄は私一人の一個の無駄使いから始まっていることになりま。コロナ感染についても同じことが言えると思います。

私一人の「生き方」が累計三十万人を越える数にまでなりました。自省しているとしても、自省していても、一億個のおにぎりと同様、厳然たる結果です。自粛している人も感染するのだから、自分一人自粛したってどうにかなるものではない。という考えが「自粛」という意味を知らない証拠ではないでしょうか。

自粛が自然にできる思考の原点は「知足」にあると考えます。簡単にいえば、あるものでやっていく、余分に欲しがらないということですが、煩惱の限度を知ることです。ああしたい、こうしたいと誘惑(煩惱)を制御するの

「知足」の新年としたい。

地球は人間さまのものという人間中心主義の傲慢さに気づかなければと思うのです。

別院定例法座 午後1時から

<p>1月28日 親鸞聖人ご命日法座</p> <p>&lt;講師&gt; 細川 宗徳氏(蓮乗寺住職)</p> <p>&lt;講題&gt; 「邪夢 ー新年にあたってー」</p>	<p>2月3日 三日のご坊</p> <p>&lt;講師&gt; 窪田 純氏(圓徳寺住職)</p> <p>&lt;講題&gt; 「問、お念仏を称えたらどうなるのですか?」</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

家族で話そう

仏教×グリーンケア⑫

尾角 光美

「弱さをままたにさせる支え」

自殺が増えている中で

前回は「死を平等に」というテーマで「自殺」について考えました。いかなる亡くなり方であっても、そこにあった「いのち」にまなざしを向けていくことの大切さをお伝えしました。

現在、新型コロナウイルスによる死者もかなりのペースで増えています

が、二〇二〇年十月は自殺者数が二一五三人を記録し、新型コロナウイルスで二月末から十一月末にかけて亡くなった二〇八七名を超える人数が、わずかに月で亡くなっています。新型コロナウイルスの対策も大事にしながら、自殺予防で何ができるのかも同時に考えることが、今求められているのではないのでしょうか。

自殺自体がよいとか悪いではなく、自らのちを絶って亡くなっていくこと自体はとも悲しいことだと感じます。仏教では、「殺」というのは罪だとされています。だから、私たちがこの社会の中で、自殺によって失わせているのは私たちの罪として引き受けていくことが大事だと、真宗大谷派の僧侶であり、小児科医の梶原敬一師はおっしゃいました。新型コロナウイルスの影響下で一体どうして自殺が増えているのでしょうか。私たちが引

き受けていけることはどんなことなのでしょう。

まず苦しみを認める

二〇二〇年十二月一日付けのCNNのニュースに、新型コロナウイルスの増加、とりわけ女性の自殺が増えていることの背景を解説したものがありません。記事の中にある各調査のデータからも、新型コロナウイルスによる精神的ストレスが女性や子どもたちの中で高まっていること、家庭の外にある「逃げ場」とのつながりを失っていることが明らかにされています。

ただ、それだけではなく、「弱さ」を人に知られることが恥だという日本の中にある文化や、耐え忍ぶことをよしとする価値観の影響についても書かれています。仏教とグリーンケアの視点から、どんなことができるか考えた時、重要なのはこの根本にある日本の文化や、価値観へのアプローチでないかと思えます。

仏教やグリーンケアに、新型コロナウイルス自体を直接的にどうにかする力はありません。でも「人はそもそも苦しみを抱えて生きる」という仏教の根本の教えや、「失うことは誰もが経験し、その反応は自然なものである」というグリーンケアの考え方は、今、苦しみを抱えている人が自分自身の状態をまず認める一歩を助けはしないでしょうか。

まず、苦しんでいることを認めるところから、それを「ままた」見ていき、自分をジャッジし

たり、責めたりせずにごすこと。すぐに楽にはならずとも、今を生き抜く土台のようなものが、そうしたところにあると信じています。

「しんどい」と言える社会に

人の力を借りるにも、自分を責めたり否定したりしている状態だと、なかなか難しいものがあります。「こんな自分が人に頼ってもだめだ」とだめだめスパイラルに入っていくのではないのでしょうか。きつと、誰もが弱さを抱え、喪失を経験する中で、お互いに迷惑をかけあいながら、支え、支えられの関係で生きていくのがこの世の中なのだろうと思えます。

新型コロナウイルスの影響で増えている自殺を減らせるとしたら、どんなに物理的に距離はあったとしても、しんどいことを感じたままに「しんどい」と言える社会をつくりながら、一緒に「どうしたらよいか。どうしていいのかな」を考え、共に歩める人を増やすことだろうと思えます。

物理的距離があるからこそ、心理的距離をどうしたら縮められるのか。考えることをあきらめず、文明の利器も活用し、今ここにありのちを守っていくことができればと心から願っています。今回は、この状況下で、誰もが感染し得る新型コロナウイルスと「よき死」について考えていきます。

次回は佐賀枝夏文さんの「人生の「こんなこと」「あんなこと」⑬」です。

聖教学習会(第1回)

講師 マイケル コンウェイ氏 (大谷大学講師)
日時 2月15日(月) 13時30分~16時
会場 別院研修室
会費 500円
持ち物 真宗聖典・筆記用具

真宗公開講座(第3回)

講師 朝戸 臣統氏 (本願寺派 飛騨組神通住職)
講題 「仏心とは大慈悲これなり」
日時 2月22日(月) 14時
会場 高山別院 本堂
会費 500円

真宗公開講座のコロナ対応について

昨今のコロナウイルスの高山市内での蔓延状況を鑑み、今後の各回において次年度への繰り越し(当年中止)の場合もございます。

中止の場合は、飛騨御坊ホームページ上で告知致します。(告知無い場合は予定通りの開催となります)
各回開催状況はホームページ上、または高山別院にお電話にてご確認ください。

〈行事延期のお知らせ〉

2月中旬に予定していた高山二組婦人聞法会は、コロナ感染症の影響により、開催延期となります。

ひだご坊 一口法話
URL: https://hidagobo.jp/sermon/
2月1日~ 岩崎 正親氏 (正覚寺)
2月16日~ 高島 一成氏 (常德寺)

保険タイム
〒506-0059 高山市下林町 916-1
TEL 0577-35-1630

ドローン空撮
高山市桐生町 715-003
TEL 0577-35-0350

ごすぎACT
高山市本町3-60
TEL 0577-32-1745
FAX 0577-35-1630

大谷婦人会
定例法座 三島多聞別院輪番
2月11日(木)午後1時から

池田電工
岐阜県高山市塩屋町五五-114-16
TEL 0577-34-1263

ボックス・アイオー
「新装版 何がおかしい」
佐藤愛子 著
TEL 0577-34-1263

仏壇工芸 ほりお
高山市三福寺町369-7
TEL 0577-33-6686

お仏壇
春のお彼岸セール
念珠フェア 1/29(金)~

株式会社 奥田石材
TEL 0577-33-9601
お墓の新設 リフォーム クリーニング 墓じまい
本年もよろしくお願いたします

山都印刷株式会社
TEL 0577-31-1495
自主出版 編集・出版までお手伝い致します

お風呂の暖かリフォーム
TEL 32-2577
今なら高山市のバリアフリー補助金が使えます

久寿玉 KUSUDAMA
新酒発売中
平瀬酒造店 TEL 34-0010